

## 令和7年度 第4回 産業医科大学倫理委員会議事抄録

- 1 日 時 令和7年7月2日（水）13：30～15：00
- 2 場 所 大学本館2号館4階 多目的ホール
- 3 出席者（15名）（敬称略、選出区分順）  
学内：中山、齋藤、長田、矢寺、足立、石丸、立石（和）、石田尾、東、藤野、檜本  
学外：櫻井、安元、田中、早川  
欠席者（1名）  
学内：三輪  
学外：なし

### 4 報告事項等

#### (1) 令和7年度 第2回迅速審査小委員会について

齋藤迅速審査小委員会委員長から、席上配付資料に基づき、7件の審査結果について、委員の指摘事項等に関する研究責任者の対応及び修正内容を小委員会委員長が確認したので承認することとし、内容は資料のとおりである旨の報告があった。

- ① 研究責任者： 産業生態科学研究所 環境疫学 教授 藤野 善久  
研究課題名： 虚血性心臓病の血行再建戦略-左主幹部病変  
審 査 要 旨： 迅速審査小委員会による審査の結果、「承認」とする。
- ② 研究責任者： 産業生態科学研究所 環境疫学 教授 藤野 善久  
研究課題名： 日本における COVID-19 問題および社会全般に関する健康格差評価研究  
審 査 要 旨： 迅速審査小委員会による審査の結果、「承認」とする。
- ③ 研究責任者： 産業医科大学病院 リハビリテーション部 技師 寒竹 啓太  
研究課題名： 産業医科大学病院集中治療室での早期離床・リハビリテーションに関する意識調査および実態調査  
審 査 要 旨： 迅速審査小委員会による審査の結果、「承認」とする。
- ④ 研究責任者： 産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学 教授 大神 明  
研究課題名： 産業保健分野における PHR の利活用実態とその普及の促進・阻害要因に関する調査研究 ～産業医に関わる研究～  
審 査 要 旨： 迅速審査小委員会による審査の結果、「承認」とする。
- ⑤ 研究責任者： 医学部 両立支援科学 准教授 永田 昌子  
研究課題名： 疾病別の治療と仕事の両立支援に必要な情報の整理（職場復帰標準期間とプレゼンティーズムの推計）  
審 査 要 旨： 迅速審査小委員会による審査の結果、「承認」とする。
- ⑥ 研究責任者： 産業生態科学研究所 産業精神保健学 教授 江口 尚  
研究課題名： 中小規模事業場のストレス対策とリスクリングの実態把握と今後の支援策に関する調査研究

審 査 要 旨： 迅速審査小委員会による審査の結果、「承認」とする。

- ⑦ 研究責任者： 医学部 公衆衛生学 准教授 大河原 眞  
研究課題名： 企業における更年期障害への産業保健職の対応に関するアンケート調査  
審 査 要 旨： 迅速審査小委員会による審査の結果、「承認」とする。

## 5 審議事項等

- (1) 令和7年度 第3回 産業医科大学倫理委員会議事抄録（案）について  
中山委員長から、資料に基づき提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
- (2) 令和7年度 倫理委員会開催日程（案）について（R8.1～R8.3）  
中山委員長から、資料に基づき提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

## 6 研究倫理審査

### (1) 新規申請

- ① 研究責任者： 産業生態科学研究所 放射線衛生管理学 教授 岡崎 龍史  
研究課題名： 動物園・水族館における放射線業務管理と防護意識のアンケート調査研究  
審 査 要 旨： 審査の結果、以下の指摘事項について、適切に修正の上、再提出されたものを委員長が修正内容を確認した時点で「承認」とする。

[指摘事項]

#### ○倫理審査研究計画書

##### 8. 個人情報等の取り扱い方法（研究対象者のプライバシー確保に関する対策）

###### 1) 個人情報等の加工

「有」、「対応表なし」を「無」、「理由：個人情報を収集しない」に修正する。

##### 9. 研究対象者に生じる利益、負担及び予測されるリスク

###### 3) 研究対象者の予測されるリスク

・「リスク有」となっているが、匿名のアンケート調査であり、さらに安全管理対策も適切に講じているとのことで、「リスク無」としてよいのではないか。

###### 4) 研究対象者の負担及び予測されるリスクを最小化する対策

・「その他 3. 回答の任意性とスキップ可能性 無回答のままでも送信可能な構成」とあるが、研究対象者への説明文書にそのような記述がないため追記する。

#### ○質問紙

「線量管理」

・問8 「管理がされていますか」を「管理をされていますか」に修正する。

・問10 「10で…」を「9で…」に修正する。

「研修」

・問20 「16であると…」を「19であると…」に修正する。

備 考： 産業医科大学大学院 医学研究科 産業衛生学専攻 博士前期課程の大学院生  
山本 愛菜が委員会同席。

- ② 研究責任者： 産業生態科学研究所 放射線衛生管理学 教授 岡崎 龍史  
研究課題名： 歯科診療所におけるX線検査時の職業被ばくに関する実態と改善策  
審 査 要 旨： 審査の結果、以下の指摘事項について、適切に修正の上、再提出された

ものを委員長が修正内容を確認した時点で「承認」とする。

[指摘事項]

○倫理審査研究計画書

4. 実施計画 b) 研究の具体的方法

- ・【放射線被ばく量の測定】「得られたデータを分析し」とあるが、「データ」が「放射線被ばく量のことなのか、アンケートと放射線被ばく量のことなのか」がわかりづらい。また、「アンケート調査での結果を踏まえて」という記述もわかりづらいので、有効性を検討する具体的な方法を記載する。

7. 実施事項等における倫理的配慮について 1) 研究対象者に理解を求め、同意を得る方法（インフォームド・コンセントの手順）

- ・「研究対象者から必ずしも文書によるインフォームド・コンセントを要しない」とあり、理由に「要配慮個人情報を含まないため必ずしも要しない」とあるが、要配慮個人情報が含まれなくてもインフォームド・コンセントは必要であるため、当該理由の記述を削除する。電磁的方法でインフォームド・コンセントを実施するのであれば、「その他」にチェックし、「web 上で説明を行いチェックボックスを設けて同意を得る」のような記載とする。

9. 研究対象者に生じる利益、負担及び予測されるリスク

1) 研究対象者の利益

- ・「無」でよいが、直接的な利益はなくても間接的な利益はあるため、その内容を記載する。

2) 研究対象者の負担

- ・「無」となっているが、時間的拘束等があるため、「有」とし内容を記載する。

○「ご記入に際してのお願いならびに同意書」

2. 「…『アンケート調査へ参加される方への説明文書』…」を、「アンケート調査に参加される方への説明文書」のタイトルに合わせて修正する。

[質問事項]

○倫理審査研究計画書

4. 実施計画 b) 研究の具体的方法

- ・歯科医師会及びその所属の各歯科診療所への説明は、どのように行うのか。  
→歯科医師会に調査の依頼文書を送付し、了承を得られた後に、各施設に依頼文書及び説明文書を送付する。
- ・放射線被ばく量の測定においては、人体を模した模型を用いるとのことである。  
→そのとおりである。

備考： 産業医科大学大学院 医学研究科 産業衛生学専攻 博士前期課程の大学院生 上田 大佑が委員会同席。

- ③ 研究責任者： 医学部 産科婦人科学 助教 金城 泰幸  
研究課題名： 大分県の就労褥婦を対象とした産褥1年における尿失禁の概要と労働機能障害の評価  
研究代表機関： 産業医科大学  
審査要旨： 審査の結果、以下の指摘事項について、適切に修正の上、再提出されたものを委員長が修正内容を確認した時点で「承認」とする。

[指摘事項]

○倫理審査研究計画書

1. 研究課題名

- ・「…産褥1年…」を「…産後1年…」に修正する。

○オプトアウト文書

- ・大分中村病院での研究に参加した方向けの文書であるため、タイトルの「『大分県の就労褥婦を対象とした産褥1年における尿失禁の概要と労働機能障害の評価』に参加された方へ」を「『大分中村病院における排尿症状が労働機能に及ぼす影響』の研究に参加された方へ」に修正する。
- ・一般の方向けの文書であるため、「6. 研究の方法」における表記を、わかりやすい表現に修正する。「分娩した産褥婦」を「分娩された患者さん」等の柔らかい表現にする。また、「ICIQ-SF」、「Wfun」という表記について、日本語で分かりやすい説明を追記する。

④ 研究責任者： 産業生態科学研究所 環境疫学 教授 藤野 善久

研究課題名： 男性更年期障害のスクリーニング実装に向けたパイロット研究(2)

審査要旨： 審査の結果、以下の指摘事項について、適切に修正の上、再提出されたものを委員長が修正内容を確認した時点で「承認」とする。

[指摘事項]

○研究対象者への説明資料

「男性更年期障害、LOH 症候群」

- ・「…潜在的に該当する方向」を「…潜在的に該当するという報告」に修正する。

[質問事項]

○倫理審査研究計画書

4. 実施計画 b) 研究の具体的方法

- ・①②の事業所と③の事業所で内容が異なるのはなぜか。  
→研究者として実施したいことは同じである。①②の事業所は、場所の調整等を行うが説明や同意の取得といった研究に関しては産業医科大学で行ってほしいとのことであり、③の事業所においては、本研究者の一人が当該事業所の産業医でもあるため、当人が中心となっていくということである。

(2) 変更申請（中央一括審査）

① 研究責任者： 産業保健学部 広域・発達看護学 准教授 中村 恵美

研究課題名： 化学療法を継続する進行肺がん患者の療養生活を支援する看護教育プログラムの開発・評価に関する研究—化学療法を継続する進行肺がん患者に対するがん化学療法認定看護師による看護実践の実態—

研究代表機関： 産業医科大学

審査要旨： 審査の結果、「承認」とする。

(3) 変更申請

- ① 研究責任者：産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学 教授 大神 明  
研究課題名：新たに考案された特殊健診問診票の導入に関する研究  
審査要旨：審査の結果、「承認」とする。
- ② 研究責任者：産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学 学内講師 安藤 肇  
研究課題名：Virtual Reality ライブ配信技術の職場巡視教育への応用可能性の検討  
審査要旨：審査の結果、「承認」とする。
- ③ 研究責任者：産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学 学内講師 安藤 肇  
研究課題名：VR 技術を用いた遠隔職場巡視の現場活用に関する研究  
審査要旨：審査の結果、「承認」とする。
- ④ 研究責任者：産業生態科学研究所 環境疫学 教授 藤野 善久  
研究課題名：女性の健康と労働に関するインターネット調査  
審査要旨：審査の結果、「承認」とする。
- ⑤ 研究責任者：産業保健データサイエンスセンター 学内講師 藤本 賢治  
研究課題名：産業保健情報のデータベース開発に関する研究  
審査要旨：審査の結果、「承認」とする。
- ⑥ 研究責任者：産業生態科学研究所 人間工学 教授 榎原 毅  
研究課題名：バーチャルリアリティ利用中の生体情報によるメンタルヘルス・モニタリング手法の構築－Head Mounted Display による測定手法の標準化－  
審査要旨：審査の結果、「承認」とする。
- ⑦ 研究責任者：産業生態科学研究所 産業保健経営学 准教授 永田 智久  
研究課題名：企業と健康保険組合とのコラボレーションによる健康管理活動および保健事業の推進のための研究（コラボヘルス研究）  
審査要旨：審査の結果、「承認」とする。
- ⑧ 研究責任者：産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学 教授 大神 明  
研究課題名：ESS（エプワース眠気尺度）とワーク・エンゲイジメントの関係についての調査  
審査要旨：審査の結果、「承認」とする。
- ⑨ 研究責任者：産業生態科学研究所 環境疫学 教授 藤野 善久  
研究課題名：機械学習を用いた職域若年者に対するメタボリックシンドロームの発症予測モデルの開発と予測因子の検討  
審査要旨：審査の結果、「承認」とする。
- ⑩ 研究責任者：産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学 教授 大神 明  
研究課題名：特許技術を使った唾液検査によるストレス定量法確立の基礎実験  
審査要旨：審査の結果、「承認」とする。
- ⑪ 研究責任者：産業生態科学研究所 産業保健管理学 講師 永野 千景

研究課題名： 耳垂部における minor 法を用いた発汗量の定性的評価について  
審査要旨： 審査の結果、「承認」とする。

⑫ 研究責任者： 産業生態科学研究所 環境疫学 助教 大久保 直紀  
研究課題名： 働く女性の健康(月経や更年期症状)に関する調査  
審査要旨： 審査の結果、「承認」とする。

⑬ 研究責任者： 産業生態科学研究所 環境疫学 教授 藤野 善久  
研究課題名： COVID-19 流行下における社会環境と健康に関する労働者調査  
審査要旨： 審査の結果、「承認」とする。

## 6 その他

- (1) 研究終了報告 2 件及び進捗状況報告 16 件について、別紙のとおり承認された。
- (2) 前回の委員会で委員から提案があった 2 点について、意見交換の結果、次のとおりとなった。
  - ① 変更申請書について、「見え消し」機能を使用して運用する方向で、引き続き調整及び検討することとなった。
  - ② 現行では新規申請の際に提出を必須としているチェックリストの取扱いについて、項目の見直しを含めて、引き続き検討することとなった。
- (3) 中山委員長から、現在、大学院生（一般・社会人）の研究においては指導教員を研究責任者としているが、社会人大学院生のうち助教以上の本学の教職員については、研究の主体によって、その方を研究責任者とすることもできることとしたいとの提案があり、了承された。
- (4) 中山委員長から、倫理申請において、学部生が卒業研究等で研究に携わる場合は当該学部生を「研究者」とすることの確認があり、その場合に「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理講習会」及び「eAPRIN」の受講を必須とするかどうかについて意見交換を行った結果、両方の受講を必須とすることとなった。

## 研 究 終 了 報 告

| 承認番号   | 研究責任者 | 所 属         | 職 名 | 課 題 名                                        |
|--------|-------|-------------|-----|----------------------------------------------|
| R4-023 | 河村 洋子 | 安全衛生マネジメント学 | 教授  | 大学生のCOVID-19ワクチン接種行動に関するメディア行動と社会的要因の日印米国際調査 |
| R3-051 | 江口 尚  | 産業精神保健学     | 教授  | COVID-19流行下における難病患者の新規就労又は就労継続に関する調査         |

## 研 究 進 捗 状 況 報 告

| 承認番号     | 研究責任者  | 所 属         | 職 名 | 課 題 名                                                                 |
|----------|--------|-------------|-----|-----------------------------------------------------------------------|
| ER23-017 | 丸山 崇   | 第1生理学       | 准教授 | 「IoT技術を用いた転倒予防システムの開発」                                                |
| R4-027   | 立石 和子  | 基礎看護学講座     | 教授  | 看護学生における被災経験と防災意識、ボランティア活動への意識の関連について -自然災害が多い地域と比較的少ない地域の比較-         |
| ER24-013 | 立石 和子  | 基礎看護学講座     | 教授  | まちの減災ナース指導者としての介入方法の検討<br>-企業からひろめる減災活動-                              |
| ER23-024 | 立石 和子  | 基礎看護学講座     | 教授  | 医療従事者に求められているコンピテンシーの検証<br>-伝統医療従事者へのインタビュー調査-                        |
| R4-032   | 庄司 卓郎  | 安全衛生マネジメント学 | 講師  | AR(拡張現実)を利用した安全教育の効果の検証                                               |
| ER23-020 | 谷 直道   | 人間工学        | 助教  | 介護施設における組織介入アプローチは腰痛予防に効果的か? :比較対照試験による検証                             |
| ER23-026 | 藤原 広明  | 人間工学        | 准教授 | 就寝前のストレッチによる睡眠の質と量への影響に関する介入研究                                        |
| R4-030   | 永野 千景  | 産業保健管理学     | 講師  | 耳垂部におけるminor法を用いた発汗量の定性的評価について                                        |
| ER23-015 | 江口 尚   | 産業精神保健学     | 教授  | 職場の孤立・孤独を予防する管理者向けの介入手法の開発<br>～前後比較試験による研究～                           |
| R3-021   | 江口 尚   | 産業精神保健学     | 教授  | うつ病で休職した労働者の復職時の認知機能と復職後の就労継続期間の関係について                                |
| ID24-007 | 江口 尚   | 産業精神保健学     | 教授  | 個人事業者等向け職業性ストレス簡易調査票及び評価基準等の開発と、セルフケア等への効果的な活用方策の確立に向けた研究のためのインタビュー調査 |
| ER24-021 | 大河原 眞  | 環境疫学        | 講師  | 不妊治療の保険適用化後の治療実態とその社会経済的背景の疫学的解明:課題2NDB調査                             |
| ID24-006 | 上野 晋   | 職業性中毒学      | 教授  | 金属アーク溶接等による溶接ヒュームの二次曝露およびその健康障害の実態評価に関する調査研究                          |
| R1-015   | 大神 明   | 作業関連疾患予防学   | 教授  | 特許技術を使った唾液検査によるストレス定量法確立の基礎実験                                         |
| R4-031   | 松垣 竜太郎 | 作業関連疾患予防学   | 助教  | 高年齢労働者の労働災害、労働機能障害、および健康に関する調査                                        |
| ER24-016 | 永田 智久  | 産業保健経営学     | 准教授 | 健康経営に係る企業の意思決定プロセスと意思決定に必要な情報に関する調査                                   |

| 承認番号     | 研究責任者  | 所 属                  | 職 名 | 課 題 名                                                                                        |
|----------|--------|----------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ER23-025 | 森 晃爾   | 産業保健経営学              | 教授  | 労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)の第三者審査において、労働衛生分野が適切に審査されるために必要な審査員の知識および能力の向上のための実践的研修プログラムの開発と評価 |
| R2-020   | 立石 清一郎 | 災害産業保健<br>センター       | 教授  | 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の産業保健職の対応に関する調査                                                        |
| ER23-010 | 五十嵐 侑  | 産業医実務研修<br>センター      | 助教  | 科学的根拠に基づいた職域がん検診の普及のためのインタビュー調査                                                              |
| R4-042   | 五十嵐 侑  | 産業医実務研修<br>センター      | 助教  | 新型コロナウイルス感染症の罹患後症状を有する労働者の就労支援に関する調査                                                         |
| IK24-004 | 渡辺 一彦  | 高年齢労働者<br>産業保健研究センター | 助教  | 勤労者におけるロコモティブシンドロームと関連する因子の検討                                                                |